

日 本 ボ ス ト ン 会 会 報

発行所 日本ボストン会事務局

会長退任に当たって

会長 鶴 正登

本年11月で2年の任期を終え、会長を退任いたします。佐々木浩二前会長から引き継いであつという間の2年間でした。会員の皆様のご支援・ご協力に対し心から御礼申し上げます。

会の運営については、私をご推薦頂いた茂木賢三郎元会長が退任のご挨拶で述べられた通り、藤盛紀明副会長を始めとする幹事の皆様が精力的且つ献身的に各催物の実行を図られました。幹事の皆様には改めて御礼申し上げたいと思います。従って会長としての実績を問われても特に誇るべきことはありません。それより一会員として、幾つかの行事に家内ともども参加して楽しませていただきました。

特に印象に深いのは、昨年のお花見の会です。会食会場の手配の都合上、日取りを早いうちに決めなくてはなりません。確か比較的暖かい冬であり長期予報からも開花が早まりそう、との情報があり、幹事の皆様の各種意見も拝聴した後に、今こそ会長の出番と意気込んで当初予定より一週間早い日取りを決定いたしました。結果は大外れ! 開花を控えて逆に冷え込む日が続き、当日は蕾のみ。僅か一・二輪の桜を見るに止まりました。勿論人出もほとんど無し。「こりゃあ空いていいや」と強がったものの、肝心の桜が咲いていないんですから何がいいんだか訳が分かりません。

また当会の実績ではありませんが、この二年間でボストンと日本の距離がぐっと縮まりました。松坂大輔・岡島秀樹両投手のレッドソックス加入です。松坂投手は期待通りの活躍でしょうが、特に岡島投手の活躍・地元での人気の高まりは嬉しい限りです。

レッドソックスはワールドシリーズでも優勝。加えて今年NBAでセルティックスも優勝。N.E.ペイトリオッツはスーパーボウル準優勝。これでNHLのブルインズが復活すれば4大スポーツボストン万々歳です。

さてここで次期会長についてお伝えします。佐々木前会長からご推薦があり、既に一昨年の会報第28号でご紹介された通り、株式会社フェロウテック社長の山村章氏をお願いいたします。同氏の略歴は同会報に記載の通りです。

更に山村氏の次の会長(2010年11月~)候補に法眼健作(ほうげんけんさく)元ボストン総領事をご推薦申し上げます。同氏は1941年生まれ、東京大学在学中に外交官試験に合格され1964年外務省入省。更に英国ケンブリッジ大学に留学されて学士及び修士の資格を取得されました。ボストンには1989年から91年まで総領事として駐在。その後ホノルル総領事、帰国後中近東アフリカ局長、研修所長、ニューヨークで国連事務次長(広報担当)、カナダ大使を歴任されて2005年に退官。現在NEC顧問、ホンダ取締役をしておられます。ご本人も失念されていたようですが、当会にはホノルルから帰国された1995年に入会しておられます。この度の次々期会長就任要請を快くお受けいただきました。

最後になりましたが、日本ボストン会のますますの発展を祈念いたしまして、退任のご挨拶といたします。本当にありがとうございました。

2008年日本ボストン会イベント

- * 総会・懇親会(NEC 三田ハウス芝クラブ
11月13日(木))
- * 親睦ゴルフ会(川崎国際生田緑地ゴルフ場)
11月27日(木))

- * 紅葉狩りの会(小石川後樂園を予定)
11月30日(日))
- * お花見の会(千鳥が淵を予定)
2009年4月5日(日))

観桜会報告

2 0 0 8 年 千 鳥 ヶ 淵

昨年の観桜会は3月24日に開催したために、開花には早すぎる観桜会になりました。そこで、今年は繰下げて4月5日の開催になりました。

現実には1週間早い3月末が満開となりましたが、冷気が続き、花が4分かつ残る観桜会となりました。

地下鉄「九段下駅」から千鳥ヶ淵への人並みも、夕方にはゆっくり歩ける程度に減っており、落ち着いてお花見を楽しめる雰囲気になっていました。武道館への入り口の土手から眺める桜は、遠目には葉桜とは思えない程にまだ花びらが残っていて、十分に楽しめる風情が残っていました。

千鳥ヶ淵の入口から、係員の誘導でお堀越しの桜を眺めながらゆっくり歩き、集合場所の三井アーバンマンションの前には、午後5時過ぎに当会の参加者が集まり始めていました。ボート小屋前にはボートにのる人達の長い行列が作られていました。

定刻の5時半前には参加者は遊歩道を半蔵門の方に歩き、桜の木が切れた辺りから戻る散策を楽しんで、再び集合場所に戻り、参加者を確認してから、会場の九段下駅側のホテル・グランドパレスまで、会話を楽しみながら歩き、混雑が招く雑踏がないばかりに、午後6時過ぎに着くことができました。

個室が予約されていたので、開場時間までゆっくり休むことができました。我々の部屋はブッフェ・テーブルが準備されている大食堂に隣接しており、個々に取りに行く手間はありましたが、参加者28人が静かに会話ができる雰囲気を楽しみました。

茂木賢三郎顧問、藤崎博也顧問の到着を待ち、午後6時40分に生田幹事が司会して開会、茂木顧問から、今年のお花見にはボストンから吉野耕一先生夫妻、および初めての参加者を迎え、歓迎申し上げるとのご挨拶を頂きました。さらに、本年1月に急逝された吉野屋の古川義子さんには1971～73年にお世話になったとの思い出を語られ、全員で1分間の黙禱を捧げました。

藤崎先生からも昨年の大津旅行以来の参加になる旨のご挨拶を頂きました。

乾杯は千鳥ヶ淵の桜に特別の関心をお持ちになっている水野賀弥乃さんをお願いしました。同僚である同じ職場の福田絵里子さんを紹介され、3月24日にボストン・レッドソックスが来日した時に、球団が子供達140人を招いて野球教室を開催し、選手から指導を受け、後で選手のサイン・ボールが届

けられてとても喜んだ話とか、試合前のレセプションにはレッドソックスの大ファンの小澤征爾氏が顔を出した話を披露して、「サクラ」に乾杯の音頭をとっていただきました。

食事に入る前に、初参加の方に自己紹介をお願いいたしました。

*福田絵里子さん：学生時代に友人を尋ねてボストンに行った記憶があるとのこと。

*高橋利彦氏夫妻：1980年代、生田幹事の住んでいた家を引継ぎました。

*福島豊氏夫妻：1973～79ボストン滞在。当時、領事館もなく、日本人小学校も作った。子供達の心の故郷である。

*小野田勝洋氏夫妻：1972～79ボストン滞在。

午後7時に食事に移り、懇談のあとで、吉野先生から吉野屋の古川義子さんの葬儀の様子の報告を頂きました。葬儀はマウント・オーバン墓地の教会で無宗教で執り行われましたが、75人の席にたいして立つ人もでる満席の会葬者があり、先生が葬儀責任者を務め、日本からもお香典をお届けいただいたことへの謝意を表されました。今回の来日で遺骨を持ち帰り、甥御夫婦に成田でお渡しして無事に責任を果たされたとのことでした。

吉野夫人からは、義子さんが事業に失敗し、新居に移るまでの間、吉野屋の店の反対側の空き屋に住んでいたが、マンション建設までの間、中近東の人々が彼女を助け、インド人の経営コンサルタントが弁護士を雇って彼女をサポートしていたとの事でした。これから帰国して、遺品の後始末の仕事が残っているとの報告がありました。その他、「ボストンへようこそ」の編集責任者であった横野洋子さんが若くして、小学1年生の子供を残してガンで急逝された話も報告されました。(別項参照)

藤崎先生からは、名古屋ボストン美術館が今年の4月から9月まで「クロード・モネの世界」の展覧会を準備しているチラシ、およびジョン万次郎がフェアヘブンで過ごした米国捕鯨船のウィリアム・ホイットフィールド船長の自宅が売りに出されたことを知った有志(代表・日野原重明先生)の「ホイットフィールド・万次郎友好記念館」募金活動の報告を頂き、有志に募金協力と呼びかけられました。

この後、幹事から桜に因む俳句・和歌22首のクイズを全員に配り、詠み人を考えて貰いました。

締めは藤盛紀明副会長のご発声で、古川義子さんを偲び3本締めで、閉会いたしました。

(俣野善彦記)

2008 年千鳥が淵の桜に思う

水野 賀弥乃

昔、我が家の庭に大きな桜の樹が 3 本あった。その下で春には園遊会を催し、今でいうケイタリングを頼んで、お寿司や焼き鳥が振る舞われた。私たち姉妹はくじ引きを担当し、賞品を買い出しに行ったり、小さな紙にくじ引きの番号を書いたり、賞品に因んだフレーズを考えたりした。そのような賑やかな時期が過ぎると、近所に友人のいない私は一人で庭に出て、桜の樹と遊んだ。桜の枝にぶら下がってブランコのように空に向かって飛ぶと、花びらが一斉に私と戯れ、その瞬間が小さな私にとっては至福の時であった。青空と花びらと私の大好きな遊びだった。以来、桜の大樹をみると、あの庭の桜にぶら下がった至福の時を思い出す。

千鳥ヶ淵の桜に毎年会いにいきたくなるのは、幸せて小さな子供であったあの頃に、春の一瞬ではあったが私の遊び相手だった桜に会えたような気がするからなのだろう。自分の花枝に私をぶら下げた頼もしい桜の太い幹の温かさ、花びらと一緒に空に飛んだ幸福感。千鳥ヶ淵の桜の下を歩きながら、そんな子供の頃の感覚が甦ってくる。

千鳥ヶ淵の桜の下でカップ酒をすすりながら思い出すのは、幼稚園の時から親友を招いて、水の入った銀の徳利にお猪口を二つ用意してもらい、庭の桜の樹の下に毛布を敷いて、大人達の真似をして二人だけのお花見をしたことだ。何が面白くて、二人でお水を酌み交わし合ったのかわからないが、よっぽど我が家の庭での大人達の酒盛りが、子供心に美味しそうに見えたのだろう。今は本物のお酒を楽しめて、人生 7 倍楽しいと思う。

お酒を楽しむといえ、今年から日本ボストン会のカラオケ幹事を藤盛氏の助手として務めさせて頂くこととなった。初回は 9 月 8 日、京王プラザホテルの「カラオケ 4 7」にて午後 6 時から開催、鶴会長夫妻、茂木顧問、生田観桜会幹事、幹事の藤盛様ご夫妻と私の 7 名が集まった。皆様の美声とお酒に酔いしれ、やんや、やんやと歌って 7 倍楽しいひと時を過ごした。2 時間の予定を大幅に過ぎる午後 10 時解散となった。次回は是非、皆様のご参加をお待ちしております。

歌の作者は誰でしょう

1. 散る花や 己に己(おのれ)も下り坂
2. 散る櫻 残る桜も散る櫻
3. 四方より花咲きいれて にほの波
4. 花を踏みし草履も見えて朝寝坊哉
5. 櫻散る あなたも河馬になりなさい
6. 水面や花散りかかる鯉の口
7. 花衣 脱ぐやまつわる紐色々
8. 東大寺湯屋の空行く落花かな
9. 花びらを乗せて走れり厨水
10. 哀れ花びら流れ/おみなごに花びら流れ/
おみなごしめやかに語らひ歩み
11. 久方のひかりのどけき春の日に
しづ心なく花の散るらむ
12. 花は散りその色となく眺むれば
むなしき空に春雨ぞ降る
13. 吹く風をなこそその関と思えども
道も背に散る山櫻かな
14. 櫻散りぬる風のなごりには
水なき空に波ぞ立ちける
15. 山里の春の夕暮れ来てみれば
いりあひの鐘にぞ散りける
16. 春風の花を散らすと見る夢は
目覚めても胸の騒ぐなりけり
17. 散りまがふ花は衣にかかれども
みなせをぞ思ふ月の入り方
18. 散るぬればのちは芥になる花を
思ひ知らずもまどふ蝶かな
19. 惜しめども散りはてぬれば桜花
いまは梢を眺むばかりぞ
20. 櫻さくら 櫻咲き初め咲き終わり
何もなかったような公園
21. さくら さくら サクラ Sakura
散るさくら
22. 街に野に立ち現われて狂えしが
葉桜となり諸木隠る

(生田英機)

(答え)

1. 一茶、2. 良寛、3. 芭蕉
4. 与謝蕪村 5. 漱石、6. 紅緑
7. 杉田久女、8. 宇佐美魚、
9. 南うみお、10. 三好達治、
- 11 友則、12. 式子内親王、
13. 源義家、14. 貫行、
15. 能因法師、16. 西行法師
17. 壬生忠岑、18. 僧正遍照
19. 後白河院 20. 万智
21. 種田山頭火、22. 富小路禎子。



日本ボストン会観桜会写真撮影 二〇〇八年四月五日 (敬称略)

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------|--------------|--------------|--------------|--------------|-------------|--------------|-------------|------|------|-------|------|------|------|-------|------|-------|-------|
| 生田英機 小野田勝洋 | 篠崎史朗 俣野善彦 | 福島 豊 當間夫人 | 関 直彦 棚橋征一 | 藤崎博也 當間秀雄 | 森夫人 高橋利彦 | 近藤夫人 近藤夫人 | 近藤宣之 森 啓 | 藤盛紀明 | 福島夫人 | 福田絵里子 | 藤盛夫人 | 吉野耕一 | 吉野夫人 | 茂木賢三郎 | 俣野夫人 | 水野賀弥乃 | 小野田夫人 |
|---------------|--------------|--------------|--------------|--------------|-------------|--------------|-------------|------|------|-------|------|------|------|-------|------|-------|-------|

「ホイットフィールド・万次郎 友好記念館」開設募金の件

藤崎 博也

4月5日のお花見には、久々に参加させていただき有難うございました。満開をやや過ぎたとはいえ、千鳥が淵の櫻はまことに見事で、丁度ライトアップの始まった夕景を堪能いたしました。また、その後の会食でも、皆様のお話を楽しく伺うことができ、有難うございました。特に生田幹事様には、行き届いたお世話になりましたこと、厚く御礼を申し上げます。

さらに、まことに唐突なお願いだったにもかかわらず、「ホイットフィールド・万次郎友好記念館」の開設のための募金に、当日ご参加の多くの方々からご寄付を頂き、大変に有難うございました。

内訳の詳細は省かせて頂きますが、皆様からのご芳志に小生の分を加えて、総額5万円を「日本ボストン会有志」の名義で送金いたしましたところ、このほど募金事務局から、ご寄付をいただいた方々に日野原重明先生の直筆の署名入りのお礼状が送られてまいりましたので、お届けいたしました。

席上でも申し上げましたように、今後もよろしければ、お知り合いの方々にも、この募金についてお知らせ下さいますよう、重ねてお願い申し上げます。

尚、この募金のことは、下記の事務所にてお問い合わせ願います。

「ホイットフィールド・万次郎友好記念館」
開設準備室

留学生の親代わりになった在留邦人 (ボストン日本人学生会の記録より)

三 好 彰

ボストンに留学した人々の記録集に留学生を世話した人々が出てくる。その人たちは学生が開くパーティなどに招待されるので名前が分かるのだが、どのような方なのか分からないことも少なくない。いくつかの資料で分かった大正期、戦前、戦前から戦後の三つの時代を代表する方々について記す。

1. 大正期

記録集のお茶会への招待者リストに Ishikawa とだけ出てくる方がいる。これだけでは調べようも無かった。しかし大正5年から6年間にわたり月刊(当初は隔月)で発行された雑誌 The Japanese Student に K.Matsuno というハーバード大学の留学生が Our Mamma Ishikawa of Boston という記事を書いているのを見つけた。

この記事によると Ishikawa さんは Boylston 通りで日本品を商っていたのだが、Matsuno が年末に買物に行ったら「大晦日にソバとお雑煮を振舞うからお友達を連れてきなさい」と声を掛けられた。当日、行ってみると45人もの日本人が集まっていた。

最初に年越しソバをよばれた。カルタ遊びなどを行っているうちに年が明け、そしてお雑煮が贈られた。Ishikawa さんが一人で切盛りされた。遠い異国に居るのに、まるでふるさとの母のもてなしのようだったと書いている。

なお The Japanese Student 誌は日本人留学生のために発刊されたものであり、その編集長はシカゴ大学医学部を卒業して研究員になっていた加藤勝次氏だった。このとき氏もシカゴから参加していた。加藤氏は血液学の権威であり、戦後のことだが昭和天皇への御前講義の荣誉を担われた。

Ishikawa さんの経歴などは何も分からない。このような方が各時代におられたようだ。

2. 戦前

大正半ばにハーバード大学医学部で矯正歯科を学び講師になったあと、現地で開業した藤代信次氏はご自分が苦学生であったこともあって自宅が留学生のたまり場になるほどに面倒を見られた。

実はボストン日本人学生会の記録は開戦によって現地に置いておくよりなかったが、戦後に留学された真次氏の長女の素子さんがケンブリッジで見つけた嚴父の遺品の中にあつた。戦乱の中で保管しておられたのも留学生の世話の一環だったのだろう。

留学生は日米間の橋渡しをする ambassadors of goodwill になって欲しいと、素子さんは戦後の最初のページに書いている。

現在デトロイト郊外に住んでおられる素子さんと連絡が取れて戦前の留学生のお話を聞くことが出来たし、たくさん写真を頂戴した。そのなかに新年会などの写真があり都留重人氏やライシャワー博士などが写っている。

3. 戦前から戦後にかけて

戦前から戦後にかけて、日本人留学生がとりわけお世話になったのが在留邦人の八橋さん一家である。家長の春通氏は Copley Square にあつた山中商会ボストン支店長であつた。

山中商会というのは、山中定次郎氏が明治27年にニューヨークで開業した東洋古美術の販売を行う会社であつたが、事業が順調に伸びてボストン・シカゴ・ロンドン・北京につぎつぎ支店を開設し、イギリス王室からロイヤル・ワラント(英国王室御用達の証明紋章)を贈られるまでになった。明治・大正・昭和(戦前)における東洋美術の世界的コレクションは、ほとんど山中商会が関わっていたといわれている。

昭和6年に高松宮、同妃両殿下がボストンを訪問された折の晩餐会では、春通氏がメイン・テーブルについていることから山中商会の発展ぶりが分かる。

戦後の記録には、御嬢様の菊枝さんが学生会の集会のたびにピアノを演奏されたことや、ハイキングを予定した日が雨になったので、八橋家の Summer House でバーベキューをすることにしたことなどが書かれている。

なおご一家の方々が判明したのは、ボストンの日本協会から春通氏の長男・道夫氏の未亡人である正子さんを紹介していただいたことによる。正子さんとお電話でお話することが出来た。

フェノロサ、ビゲロウと法明院 (Ⅲ)

山口 静一

【8】明治初年の宗教環境

ここで明治初年の宗教事情を概観しておきましょう。ご存じのように明治初年は、膨大な数量の仏像仏画や古建築など貴重な文化財を失う結果となったいわゆる廃仏棄釈の嵐が吹きまくった時代でした。しかしこれは明治政府が強制した命令ではありませんでした。王政復古が重要なスローガンだった新政府は、従来の神仏混淆の風習を廃し天皇家の先祖を祀る日本古来の神道を復権させるために「神仏判然令」を公布したのですが、各地の藩知事たちがこれを拡大解釈し武力によって寺院の破壊統廃合を強行したのです。民衆がそれを許容したのは、それほど仏教積弊の墮落が目に見えるほどだったのでしょう。

しかし、16世紀宗教改革後のカトリック教会のように、覚醒した新進仏教徒、仏教指導者の活躍は目覚ましいものでした。ヨーロッパやインドに渡航して仏教を研究し、帰国して日本仏教の革新に尽力した僧侶たちに、島地黙雷、石川瞬台、南条文雄、藤島了穩、赤松連城その他多くの人々が輩出しています。

一方キリスト教の方ですが、新政府がキリシタン禁制の高札を撤去したのはようやく明治6年、それも信徒迫害に抗議するヨーロッパ列国の圧力によるものでした。それまで、来日した欧米の宣教師たちは、ヘボン博士やジェームズ・バラのように、公的には医師として、あるいは英語教師として密かに伝道に従事するだけでしたが、それでも彼らの人格に感化されてキリスト教に改宗する日本人が目を逐って増えて行きました。

改宗者の増加を恐れた政府は、「なりふり構わず」の表現が妥当と思われるが、神道と仏教の大同団結を図ります。本来は神道国教化を目指して明治5年教部省は大教院を設置、「三条の教訓」(敬神愛国・天理人道・皇上奉戴)に則って国民教化のための教導職制度を設けていました。全国の神官と僧侶が教導職に任じられ、その職制には「教正」「講義」に大中少およびそれぞれに次位を表す「権」の字のつく12の職階(大教正、権大教正、中教正、権中教正など)と、さらにその下に「訓導」があったようです。大教正には伊勢神宮祭主や出雲大社宮司、寺院側からは各宗派の管長や法主が任命されています。国民教化の説法はもともと僧侶の得意とするところでは神官の仕事ではありません。当然ながら神職と僧

侶の所説は矛盾するところが多く、2年後には両者の対立によってこの制度は廃止されますが、仏教側ではその後10年以上にわたって、教正、講義等の呼称を残し、キリスト教蔓延防止の説教活動を続けました。

後述するフェノロサ、ビゲロウの師、三井寺法明院の任職は、明治17年6月の仏教新聞に「桜井敬徳中教正」として報道され、廃寺となった伊勢の小寺を再興した浄土僧は明治24年の再興記録に「中講義大江学翁」と自署しています。

【9】モースの進化論講義とクリスチャンの反発

しかしながらモースの来日した明治10年前後には全国各地に教会やミッションスクールが出来、プロテスタントとカトリックを問わず、病院、養育院といった社会事業を通して教勢は拡大し、改宗者が増え続きます。

西洋人がキリスト教を説くのは当たり前、これも文明開化のしるしと考えていた一般市民を驚かせたのは、モースのキリスト教批判でした。ダーウインの信奉者だった動物学者モースの進化論講演は、アメリカでも保守的なキリスト教徒から妨害や嫌がらせを受けていたため、穏健な人柄ではありませんが、彼らに対しては辛辣な言葉で応酬することが多かったと伝えられています。モースが隅田川に臨む浅草須賀町の井生村楼(いぶむらろう)という会場で江木学校主催の市民講座「動物変遷論」4回連続講演を行ったのは明治11年10月のことでした。

私立江木学校の主宰江木高遠(1850-1880、注記参照)は高名な儒学者江木鱗水の嗣子。米国留学から帰国して東京英語学校およびその後身の東京大学予備門教師を務め、フェノロサ来日まで経済学を担当しておりました。留学中に知った市民講座の開設を企画し、福沢諭吉、西周、藤田茂吉、菊池大麓、加藤弘之、中村正直ら当代一流の文化人を擁してこの年「江木学校講談会」を組織します。モースが講演を依頼されたのは、前年10月東京大学主催の進化論特別講義が聴講者に与えた感銘を一般市民にも伝えるのが目的でした。通訳は江木と菊池が務めています。その要約が『芸術叢誌』という雑誌に連載されています。

動物進化の過程を卑近な実例で示しながらきわめて平易に解説し、両手を同時に使って黒板に図解するなど、モースの人気は一気に高まり、毎回満員の盛況だったと伝えています。

人類の進化について聖書「創世記」の記述を真っ向から否定するモースに対して執拗に反駁したのは、

イギリスの宣教師で築地病院を開いたヘンリー・フォールズでした。後に土器に残された指紋に示唆されて指紋を研究し指紋法の基礎を築いた人です。彼は講演中のモースに反論を試みましたが、主催者から「ここは議論の場所ではない」とたしなめられ、後日銀座で弁駁論を披露することになります。キリスト教をめぐる西洋人同志の争いは、日本人聴衆にとって実に興味深い一幕でした。『芸術叢誌』はフォールズをからかって

「・・・いずれ天主がこう言われたとか、耶蘇(ヤソ)が然か考えたとか、証拠もなく形跡(あと)もない空中の楼閣へ登って痴夢(ゆめ)の判断を講釈することなるべければ、無鉄砲に面白い事なるべし。この面白直中が世間に沢山なるは嘆息々々」と書いています。進化論の「自然淘汰」「適者生存」の説は、様々な疑問を解く、まことに説得力のある新知識でしたが、この文章には宣教師を揶揄しキリスト教の普及を懸念する当時の知識層一般の空気が感じられます。

【10】フェノロサの宗教沿革論とキリスト教批判

モース講演最終日の日に『芸術叢誌』はフェノロサを紹介し、進化論を常に攻撃する宗教といえども幾多の変遷あって今日に至っている事実について「モールス氏の友人哲学教師米国フェノロサ氏」に講演を依頼した旨を報じています。新任のフェノロサも2週間ほど前、大学主催の定例講演会で「社会進化論の諸問題」と題する所論を発表しておりました。井生村楼の江木学校で「宗教ノ起源及ビ沿革論」の4回連続講演を開始したのは明治11年11月2日のことです。

その「傍聴記聞」が同じ『芸術叢誌』(Nos.26-40)に連載されます。まず未開人の靈魂観から発生した死と再生に関する観念を説明して天国と地獄の思想、墳墓の意義などに及び、靈魂崇拜が儀式と祭祀を生み出して一つの宗教に成長する過程を、主としてスペンサーに拠りながら多くの新鋭社会進化論学説を援用して解説したもので、啓蒙的ながら蘊蓄をきわめた講演でした。

しかしキリスト教批判に関しては、ほとんど挑発的と感じられるほど辛辣なものでした。キリスト教が如何に近代学術の自由な発展を阻害したかという告発に始まり、キリスト教の説く天地創造、人類の墮落、原罪観、救世主の出現等をことごとく迷信愚説と断じ、キリスト教が本来、未開人種に見られた靈魂再生の信仰から強大なる人物の靈に対する祭祀へと推移したものがその起源であることを証明しよ

うとします。結論として、キリスト教の神は、実はカナン地の暴君が神格化したものと断言します。要するにこの「宗教沿革論」はキリスト教絶対の観念に対する大胆率直な批判、きわめて意識的な反発に終始していると言っても過言ではありません。

フェノロサをこれほどのキリスト教批判に駆り立てたものは何だったのでしょうか。もちろん前回のモース講演を補強する意図のあったことも考えられますが、やはりハーヴァード時代に専攻したスペンサーの社会進化論が本源にあったのではないかと。

スペンサーは未開人に見られる宗教の変遷を説いても、キリスト教には沈黙を守っていました。哲学科を最優秀の成績で卒業した若き学徒フェノロサは大学院に進学しますが、一時大学内のユニテリアン神学校に通った記録があります。おそらくこの問題を解決するためだったと考えられます。しかしスペンサー宗教論の当然の帰結は、ダーウィンの進化論と同様キリスト教批判は避けられないものでした。

モースは少年時代、兄の葬儀のときの牧師の説教や厳格なクリスチャンだった父親への反抗から、キリスト教には反感を抱いていたとモースの伝記作者は伝えています。フェノロサの場合、スペイン移民でカトリック教徒だった父親は、セーラムに落ち着いてからプロテスタントに改宗した人で、少なくとも熱心なクリスチャンだったとは思われません。しかし、フェノロサがとくに反キリスト教的家庭環境に育ったという記録は見つかりません。或いは死んだ母親の実家との複雑な関係が信仰問題にまで絡んだものかもしれませんが、これも証拠はありません。

いずれにせよ、西洋人による反キリスト教演説を、諸手を挙げて歓迎したのはいわゆる「耶蘇教退治」に躍起になっていた仏教界でした。フェノロサは明治15年の龍池会演説「美術真説」を機に、日本伝統美術復興運動の旗手として全国にその名を知られるようになりますが、この「宗教沿革論」によって仏教者の間でも忘れられぬ存在になりました。11年後の明治22年、『日本之教学』という博文館発行の雑誌にこの宗教論の前半部が収録されたほどです。

(つづく)

(埼玉大学名誉教授、前名古屋ボストン美術館長)

(注記:「進化論」の通訳をした江木高遠はモースとたいへん親しくなりましたが、明治13年3月外務省書記官としてワシントンの日本公使館に赴任しました。モースが東京大学との契約満期で帰国した半年後のことです。ところが同年6月公使館で謎のピストル自殺を遂げました。日本産品の輸入をめぐる差別を在米日本商社から糾弾されたのが原因とする資料があります。あるいはモース蒐集陶器の輸入に関する事件だったかもしれません。)

「美術・歴史の会に参加して」

小野田 富子

6月14日、天気のよい土曜日、鎌倉駅西口に午前10時集合。

駅から10分の鎌倉記念大谷美術館(鎌倉は何回も行っているが、聞くのは初めてだった)に行ってみると、日本画は鎌木清方、橋本閑雪、前田青邨、伊東深水、杉山寧 等等。洋画はルドン、それにデュフィの絵が何枚もあった。デュフィのその明るい色彩感覚に私はモダンなものを感じ、絵葉書も買った。その他ガレの花器もあり、彫像の立つサンルームは、稀に見るぐらい細やかな気配りがされている立派なサンルームで特に心に残った。2階からは相模湾も見えた。「何て素敵なお邸に、立派な美術品!!」といたく感心し、江ノ電鎌倉駅に。

時あたかもアジサイのシーズン。押しつぶされそうになりながら稲村ガ崎で降り、徒歩2分のイタリアン Peter's (ピーターズと呼ぶそう) に。(混んでいてチョット待たされたけれど) カジュアルでおいしかったので、ますます幸せな気分。

その後、アジサイ巡りに極楽寺、成就院に。人、人で一杯だったが、成就院の海に臨む階段の両側に咲くアジサイはその景色と共に一幅の絵。又アジサイの頃の平日に来よう、と思った。

何とも圧巻の1日だったが、私は当日不参加だった主人を連れて、もう一度是非来ようと思ったコースで、中でも鎌倉大谷記念美術館は大きな普通の美術館ではないけれど、とても心に残った。

生田さんからお誘いをいただき、初参加いたしました。素晴らしい美術鑑賞あり、美味しい食あり、足を使って歩く健康あり、この日のプランを立てて下さった酒井・篠崎様にとても感謝いたしました。ありがとうございました。

鎌倉大谷記念美術館地図・電話 0467-22-3801



平成20年 歴史を飲もう会、

美術の会共同開催記

酒井一郎

6月14日(土)午前10時、JR 鎌倉駅西口に掲題の開催で、生田、小野田、三好の諸氏並びに、篠崎、藤盛、俣野、酒井の各夫妻の計11名が集まった。

早速、鎌倉大谷記念美術館に向かった。10分余で到着したが、建物はちいさな緑の縁の山肌に囲まれ、静かな環境の中にあり、美術館というより、瀟洒な邸宅が佇んでいると言う感じがした。その筈で、美術館はホテルニューオータニ前会長、故大谷米一氏の邸宅を家族の方々に、1997年5月に美術館として開館させたと記されていた。

当日は「東西の水辺の情景」—清方からデュフィまで一までの特別展が展示されていた。色彩の魔術師と呼ばれるデュフィ(1877~1955)の作品、海の絵「トゥルーヴィルの波止場」、競馬の絵「ドーヴィルの競馬」、音楽の絵「黄色いコンソール」など色彩と造形の美しさを鑑賞し、館内の窓からは、美しい庭と緑に包まれた鎌倉の街、その向こうには海が眺められた。

11時30分頃には、美術館を後にして、江ノ電、稲村ガ崎で下車、ランチに向かう。海岸方向に3分も歩けば、本日のレストラン、ベーカリーレストラン Peter's にたどり着く。

腹ごしらえと歓談を終えた後、再び江ノ電で隣の極楽寺駅で下車、「紫陽花」の観賞を兼ねて成就院に向かう。徒歩5~6分。最後は緩やかな坂道を少し登る。鎌倉幕府第三代将軍執権北条泰時が建立したとされる。参拝の後、有名な紫陽花を見ようとしたが、兎に角凄いでチラッと見ただけで、十分な鑑賞とはいかなかった。

極楽寺駅に戻る途中、駅に隣接している極楽寺(1259年北条義時の三男重時が建立)にも参拝し、本日の予定を終了し(午後2時10分)、現地解散とした。

この時期の鎌倉は人出が多く、江ノ電は常に満員、土、日は避けた方が良さそうだ。

(追記: 鎌倉大谷記念美術館は、入り口の門がつつじで囲まれています。美術館の方が5月にくれば、素晴らしいと話してくれました。5月には素晴らしいつつじの花が迎えてくれるでしょう。俣野)

美術の会

Raoul Dufy (1877~1953)

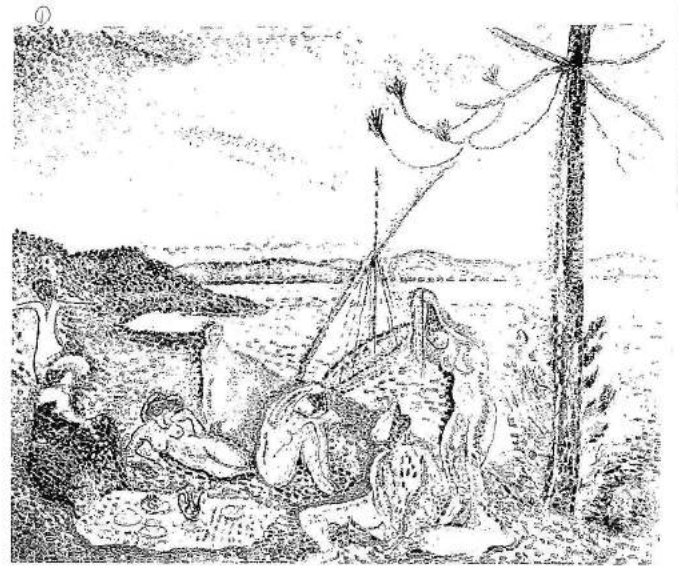
酒井 典子

デュフィはフォービズムの先駆者マティス1905年の作品“豪華、静寂、悦楽”①、その作品の色彩の持つ表現力に驚嘆した。それまでブーダン(1824~1899)やシスレー(1839~1899)風の海岸の絵を描いていたデュフィも又フォーブの様式に移っていくのであった。

フォービストとしての最初の彼の作品“海辺のテラス”(1907)②は、ピンク、オレンジ、グリーンが大まかに配されている。自由な発想で軽やかな線で描かれ、楽しげである。

鎌倉大谷記念美術館デュフィ コレクションの中の2つの作品“ニスー—幌馬車”と“3本の椰子”(1926~27)は光に満ちた明るい色彩と、早い筆使いでリズムカルに描かれている。数年前に訪れたときと変わらない懐かしい風景がそこにあった。

シカゴ美術館展(1994—損保ジャパン)で出会ったデュフィの“開いた窓—ニスー”(1928)③は、開かれた窓から見える澄んだ真っ青な空と海、そしてはるか向う岸に見える赤茶色の屋根と薄い柿色の壁は記憶に新しい。描かれてはいないが、ニスー特有の白い玉砂利のビーチ、そこに憩う人々の姿が目に見えよう。今にも潮風にのって波の音も聞こえるよ



① マティス “豪華、静寂、悦楽” 1905

うであった。赤い布の掛けられたソファーに座り、飽くことなく窓の外の景色を眺めるデュフィ、のんびり静かに時が流れる。何と幸せなひと時であったことか、……

晩年(1952)のデュフィはベネチア・ビエンナーレで国際大賞を受賞、近代美術に大きく貢献するのであった。

③



②デュフィ “海辺のテラス” 1907



③デュフィ “開いた窓—ニスー” 1928



1960-2007

横野洋子さんと婦人部

吉野 静子

婦人部の歴史を語るとき、横野洋子さんは忘れられないかたです。過去形で語らなければならないのは非常に残念ですが、昨年2月、皮膚がんで亡くされました。享年46歳でした。婦人部の次の時代を担う逸材を失ったことは非常に大きく、残念でなりません。

1992年、婦人部発足まもなく、婦人部財政の基盤となるボストンのガイドブック「ボストンへようこそ」が企画された折に、編集委員の一人として婦人部に入られたのが、洋子さんとの関りの始まりでした。

それから後、お料理の本「るるる」(作る、食べる、かたずけるの意) I、IIの出版に際しては編集長としての腕を遺憾なく発揮されて大役を果たして下さいました。

ガイドブックの編集時、ご長男を出産され、雄飛と名付けられ、生まれたばかりの赤ちゃんをバスケットに入れて編集会議に出席されていたのを、昨日のように鮮明に思い出されます。

「るるる」完結後の1995年、渡米以前にキャリア・ウーマンとして外資系の銀行で働いていた経験を生かして、ハーバード大学大学院ケネディー スクール オブ ガバメントに入学、卒業をまじかにして次男翔勇を妊娠、再び「るるる」IIの編集、と活躍され、1997年に無事卒業されました。

1998年、日本に帰国され、2000年に再度ボストンに来られてからはパワー全開、地域社会、現地校、邦人社会、特にボストン日本語学校運営委員として、又ボストン日本人会婦人部役員として大きな功績を残されました。

ここに横野洋子さんの功績を称えると共に衷心よりご冥福をお祈りしています。

ボストンでの軌跡

- 1992年 ご主人の転勤でボストン移住
- 1994年 長男出産
- 1995年 ハーバード大学大学院入学
- 1007年 同 卒業
- 1998年 次男出産
- 1998年 日本帰国
- 2000年 再度ボストンに渡米
- 2000～2006年 Burr School 及びニュートン Day Middle School のPTO、日本語学校・日本人会婦人部にて活躍
- 2006年3月 メラノーマと診断された
- 2007年2月 家族にみまもられながら永眠

洋子さんの想いで

平山 尊子

横野さんを想う時、まず真っ先に浮かぶことは、はつらつと日本語学校の廊下を闊歩する姿です。もうその笑顔を見ることができないのだと、誰が想像できたでしょうか?日本語学校になくはならない方を亡くしてしまった・・・と、たくさんの人が感じていると思います。

横野さんは下のお子さんが小学校に上がる前後から、PTAの活動に積極的に参加されるようになりました。ご主人と一緒に安全パトロール委員をなさったことを始めに、2002年4月から2003年3月まで、ウエルケア委員会を設立し、その委員長として保健室の立ち上げに尽力されました。また同時に、学校としての食品アレルギー対策をまとめられました。

2003年4月からは、運営委員会に所属し、安全委員長として学校安全活動・スクールポリスの導入・保健室の充実などに貢献されました。

発病直前の2006年初旬には、息子さん達が通っていたニュートンの学校で、インターナショナルフェアの企画メンバーに加わり、大成功を取めたと同じました。また、これより少し前には、息子さんのプリスクールでの折り紙のボランティア経験を生かし、「親子のための折り紙12か月」という横野さん手書きの図解の付いた素敵な冊子もまとめていらっしゃいます。

様々な方面での活躍——その企画力とアイデア力は、まさに「スーパー横野さん」でありました。本当に言葉に尽くせないほど惜しい方をなくしたという想いで一杯です。しかし、彼女が手がけた事の数だけ、そして、そこで触れ合った人の数だけ、たくさんの人の心に彼女は生きているのだと信じつつ、今は洋子さんのご冥福をお祈りしたいと思います。

新刊の紹介 井口武夫著

「開戦神話・・・

対米通告はなぜ遅れたか」

戦争を始めるにあたっては、相手国に正式な開戦通告を事前に与える義務がハーグ条約で決められている。それが太平洋戦争では、結果的に真珠湾奇襲後の通告となったために、「騙まし打ち」として日本がアメリカ国民の憤激を買うこととなったのは周知のとおりである。そして戦後、その通告の遅れの原因は在米日本大使館の怠慢にあったとする説が独り歩きし、永年の通説となってきた。

日米開戦の時に11歳であった武夫少年はそれまで、仲良しの友達に囲まれた生活をワシントンで謳歌していた。父上である井口貞夫氏(後の外務次官、駐米大使)はその時に日本大使館で重責を担う参事官であったため、責任を問われ、あらぬ汚名を着せられることになる。

大使館側に過失責任があったとする通説に疑問を感じていた著者は、外務省を退官した後、学者として精力的に真相解明に乗り出し、誤りを立証する資料を新たに発掘し、そしてその努力の成果として纏めたのが本書である。

米国との苦しい交渉で矢面に立つ当の駐米大使以下、開戦の予定も、電報で送られた最後通告の文書が何を意味するのかも、事前に知らされていなかった。本省からの通告発信の遅れは、意図的に操作されたものであったと著者は指摘する。奇襲攻撃を万全のものとするための、陸軍参謀本部と、その威に屈する外務省高官らの卑劣な策謀によるものであったことを、ここで検証している。

敵を欺くには味方を欺けばかり、現地の大使館は殆ど何も知らされず、スケープゴートにされたのである。しかもその最後通告とする文書は、ハル・ノートに対して交渉打ち切りを通告するものに過ぎず、国際法で決められている宣戦布告には当たらない内容であった。

本書は歴史に興味ある人にとって、目から鱗の落ちる感を生むような力作である。まかり通る「嘘」を究明し、歴史の客観的真實の軌道に戻そうと試みる本書の著者は、初代ボストン総領事を含み、外交官として数々の要職を経て、ニュージーランド大使を最後に退官した後、東海大学や尚美学園大学の教授を務めてこられた。そして、かつての日本ボストン会の会長でもある。出版記念会は、入江昭ハーバード大学教授も発起人となり、著名な外交史関係者も多く参加した。(2008年、中央公論新社刊)

(文責 関 直彦)

2008年 紅葉狩りのご案内

1. 日時 2008年11月30日(日)午後3~5時
又は紅葉情報によっては12月6日(土)
2. 場所 小石川後樂園 入園料 @300円
所在地 文京区後楽一丁目
3. 交通: 都営地下鉄大江戸線「飯田橋」(EO6)
C3出口下車 徒歩 2分
JR総武線「飯田橋」東口下車徒歩8分
東京メトロ東西線・有楽町線・南北線
「飯田橋」(TO6・Y13・N10)
A1出口下車 徒歩8分
東京メトロ丸の内線・南北線「後樂園」
(M22・N11) 中央口下車徒歩8分
4. 会食: 午後5時~7時 中国料理 豫園
@5000円 + 飲み物代
5. 会食後 第2回カラオケ同好会開催予定
6. 申込閉切: 11月15日(土)。
7. 申込先: 藤盛紀明

「ボストン日本人 学生会の記録」 中間報告

明治末から終戦直後迄の、ボストン地区への日本人留学生の調査結果の中間報告をいたします。

日時: 11月13日(木) 午後5時半から6時まで
(総会開催前に開催します)

場所: NEC森永ビル内会議室(JR田町駅隣接)
2階受付にてご確認下さい。
会場への受付開始: 午後5時15分

会場へのアクセス: JR田町駅(三田口)徒歩1分
都営地下鉄(三田・浅草線) 三田駅徒歩1分

申込: 参加者氏名は事前申請が必要です。希望者は10月31日までに幹事に申し込み下さい。

幹事: 三好 彰

有志幹事会(土居陽夫幹事との業務引継ぎ)

- 日時: 2008年3月26日(木) 18:30~20:30
 場所: NEC 三田ハウス 11名出席
- *メーリング・リスト(従来通り 土居幹事)
 - *幹事会の部屋予約(酒井幹事へ)
 - *ハイキングの会(幸野・當間、山崎幹事に)
 - *事務局住所(従来通り、但し当面藤盛宅住所で代行、会報1面のFAXは藤盛宅に切替る。)
 - *名簿管理・会報送付準備(藤盛夫人へ)
 - *会報差出人住所: 封筒・ハガキは藤盛宅に切替。
 - *幹事会記録は参加者が互選にて作成。

第61回幹事会

- 日時: 2008年6月16日(月) 18:30~21:00
 場所: NEC 三田ハウス 19名出席
- *次期会長候補、㈱フェロウテック山村章社長を紹介。
 - *ボストン日本人会久保田会長と会食報告(6月2日)
ボストン日本人会に当国会報を送り入会を勧誘する。
 - *美術の会・歴史を飲もう会: 6月14日開催報告。
 - *紅葉狩りの会: 11月下旬、小石川後楽園を予定。
あとカラオケの会開催を予定。
 - *お花見の会: 4月5日開催報告。(別項参照)
 - *ボストン地区留学生記録の報告。
 - *ゴルフの会: 4月25日開催報告。(別項参照)
 - *油絵・水彩を描く会: 幹事より閉会を提案・承認。
 - *総会開催日: 11月13日(木)に変更する。
 - *会報発行: 会報第32号の原稿は8月末締切。

第62回幹事会

- 日時: 2008年9月11日(木) 18:30~20:40
 場所: NEC 三田ハウス 19名出席。
- *鶴正登会長挨拶
次次期会長候補 法眼健作氏夫妻紹介。
 - *会計報告: 監査前の状況報告。
 - *「ボストンへようこそ」頒布状況報告。
 - *美術の会・歴史を飲もう会: 明年4月26日(日)
茂木本家美術館・醤油工場見学を予定。
 - *紅葉狩りの会: 11月30日(日) (別項参照)。
 - *カラオケの会: 初回9月8日開催、7名参加。
次回は紅葉狩りの会の後に開催。

ゴルフ懇親会のお知らせ

ボストン会の平成20年春期ゴルフ懇親会は、4月25日に、12名が参加して、川崎国際生田緑地ゴルフ場で開催されました。週間天気予報では、24日からの雨が25日にも残ると言うことでしたが、幸いな事に全員がプレーを終えるまで雨は降らず、誠に幸運でした。吉田久夫さんが、グロス107、ネット69という見事な成績で優勝されました。

プレー後の懇親会で、日本、モリシャス友好協会長の森さんから、モリシャスについての興味深いお話があり、同時に香港経由で、簡単にしかも格安で行けるという情報も頂き、モリシャスでゴルフをと言う話も飛び出すほど盛り上がりました。

次回は9月1日の予約申込の結果、11月27日(木)に、同じ場所で秋期ゴルフ会の開催が決まりました。

- 日時: 11月27日午前8:40 インコーススタート
 場所: 川崎国際生田緑地ゴルフ場
 費用: 16,000円 チェックイン時に、現金にて支払い
 参加費: 4,000円(参加費・賞品代)
 申込数: 16名、申し込み順で閉め切ります。
 幹事連絡先: 山崎恒

- *お花見の会: 2009年4月5日(日) 予定。
- *留学生の会の記録報告会: 11月13日 (別項参照)
- *ボストン日本人会会報への寄稿: 原稿を報告。
- *ゴルフの会: 11月27日(木) (別項参照)。
- *ホームページ: 活動報告の原稿提供について。
- *会報第32号発行: 予定稿回覧、9月29日発行予定。
- *次回幹事会: 2009年1月中旬。

ボストン美術館浮世絵名品展

- 会期: 2008年10月7日(火) ~ 11月30日(日)
 入館時間: 午前9時30分~午後5時、土曜日7時まで。
 休館日: 10/14、20、27、11/4、10、17、25。
 会場: 江戸東京博物館(東京都墨田区横網1-4-1)
 問合せ先: 日本経済新聞社文化事業部 TEL 03-5255-2852

総会・懇親会のお知らせ(同封 チラシ参照)

- 日時: 平成20年11月13日(木)午後6時開場、午後6時半総会開会
 場所: NEC 三田ハウス芝クラブ(JR 田町駅、都営地下鉄三田駅下車)
 港区芝5-21-7、電話03-5443-1400
 出席者: 当日払い お一人 6000円、同伴者5,000円
 事前送金 お一人 5000円、同伴者5,000円
 送金方法: _____

申し込み先: 日本ボストン会事務局(同封ハガキにて10月末日までにお知らせ下さい。)
 日本ボストン会の活動はホームページにてご覧下さい。 <http://www.biglobe.ne.jp/~boston/>